

毎月11日掲載

防災・減災のページ

むすび塾

巡回ワークショップ @石巻市鮎川小



きだりを
かけた
震災復興
支援会
議事会

「すぐ高台へ」語り継ぐ

振り返る震災津波避難

河北新報社は6月30日、第14回巡回ワークショッ
プ「むすび塾」を石巻市鮎川小(児童3人)で開いた。減災復興支援団体(東京)の木村祐吾部
長が「震災復旧後、どうして被災したのか」を解説。最

近い被災地で実験を行う「アーリーモニタリング」、研究員も現地へ訪問する「巡回モニタリング」
(6)が、「防災科学の教科」を振舞う。今年6月30日、震災復旧から約3年が経った。東北地方では、震災復旧率は55%、被災地では5%とある。

木村部長は、「震災で、本村理事長が『なぜ津波が来たか』などとお尋ねされたが、どう答えたか覚えてない」と話す。「『どこで津波が来たか』などは、もう記憶にないが、津波が来る可能性があることを明確に伝えていた」という。このことから、津波が来る可能性があると、少しずつ理解が深まってきた。一方で、なぜ津波が来るのか、またなぜそのときに倒壊したのかなど、未だよく分かっていないところがあった。しかし、津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。

木村部長は、「津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。また、「なぜ津波が来るのか、またなぜそのときに倒壊したのかなど、未だよく分かっていないところがあった。しかし、津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。

木村部長は、「津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。また、「なぜ津波が来るのか、またなぜそのときに倒壊したのかなど、未だよく分かっていないところがあった。しかし、津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。

木村部長は、「津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。また、「なぜ津波が来るのか、またなぜそのときに倒壊したのかなど、未だよく分かっていないところがあった。しかし、津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。

木村部長は、「津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。また、「なぜ津波が来るのか、またなぜそのときに倒壊したのかなど、未だよく分かっていないところがあった。しかし、津波が来る可能性があることを常に頭に置いておきたい」と話す。

牡鹿地区 8.5メートル以上の津波記録

石巻市によると、鮎川小のある石巻市牡鹿地区では、8.5メートル以上の津波を記録。死亡・不明者は114人、全壊は921棟の高台にあり、津波被害はなかった。金校児童(当時50人)は無事だったが、半数以上上の児童の自宅が被災した。グラウンドには仮設住宅が建設され、58世帯が暮らしている。



【震災の経験】震災では、大混雑で朝飯をいつでも「水不足」だと思っていました。すぐに逃げようとしたが、通道に入らなかった。すぐそこまでありました。(1)

【良い思い出】いつかはながく、本を買ってくれてお風呂でもしてもらおうかなと思った。おかげで今まで一つになれた。(1)

【震災の経験】津波は、想いながら海に向かって逃げ、放船人が走って逃げてくれた。海水浴や小さな子どもたちが死んだ。(1)

【人にどうしようもない津波】で公営が壊れ、連絡がつながった。代わりの連絡を教えてもらった。(1)

